

## 現代民俗学会 第 29 回運営委員会議事録

日時：2016 年 4 月 23 日 13:00～16:00

出席者：

（運営委員）川田、菅、塚原、徳丸、俵木、宮内

（事務局）武井

### 1. 総務委員会（塚原委員）

#### 1-1. 報告

以下の点につき報告された。

##### (1) 年次大会関係

個人研究発表について、4人のエントリーがあり、査読の結果、以下の4名が発表可となつた。

川森博司（神戸女子大学）、菅豊（東京大学東洋文化研究所）、桜木真理子（筑波大学人文社会科学研究科）、馬路（神奈川大学歴史民俗資料学研究科）

なお、発表者にはすでに通知済みで、セキュラーとして会員向け公開済みである。

当日のスケジュール等は以下のとおり。

日時：2016 年 5 月 21 日（土）

会場：東京大学東洋文化研究所 大会議室

（1）個人研究発表 10:00～12:00

（2）会員総会 12:00～12:45

（休憩）

（3）年次大会シンポジウム 13:30～

（4）総会第二部（選挙結果の公表）

各委員会の総務資料について、5月11日（水）を期限とする。ただし、研究企画委員会からは予算案作成の段階すでに提出済みである。

また、選挙管理委員会について、及川祥平氏を選挙管理委員とし、進めている。例年通

り総会当日に投開票を行う。

#### (2)会誌発送作業について

『現代民俗学研究』第8号について、4月12日（火）に筑波大学の大学院生を中心に発送作業を行った。

#### (3)電子公開関連

つくばリポジトリでの公開に向けて進めている。昨年度内に論文・研究ノートの執筆者には最終的な確認が済んでいる。公開を拒否した著者はいなかったため、刊行後3年を経過した投稿論文・研究ノートのPDFデータ作成作業中である。

#### (4)2015年度の会員異動実績

2015年度の会員の異動実績は、入会者が学生3名・一般3名であり、退会者は自主退会4名であった。

### 1-2. 審議

#### (1)決算・予算について

総務委員会から昨年度決算について報告があり、承認された。

複数の委員より会運営実務にあたっている学生に対して、無報酬の労働となっている問題が指摘された。検討の結果、各業務に対して役務費を見積もることが承認された。この点をふまえて予算案を見直した結果、平成28年度の予算につき、以下の通り変更することとなった。

1)編集費を100,000円に増額する。2)庶務事務費を37,000円に会誌発送にかかる役務費を加えたものとする。3)年次大会費を120,000円に増額する。

#### (2)学生の役務に対する支払い

今後、学生が業務にあたる場合は、一人あたり以下の額を支払うこととなった。

編集担当 35,000円／年

庶務担当 30,000円／年

発送作業業務 5,000円／日

年次大会当日業務 7,000円／日（交通費込み）

#### (3)年次大会について

年次大会当日の会場業務について検討の結果、総務委員会を中心に当日の段取りを確定し、速やかに必要なスタッフ数を計上する。筑波大学の大学院生の他、必要に応じて東京大学・成城大学の大学院生に声をかけることを検討することとなった。

#### (4)選挙について

選挙当日の開票作業については、及川祥平（委員長）、菅豊、武井基晃、宮内貴久があたることになった。

#### (5)その他

熊本地震への対応について提案があり、審議の結果以下の通り承認された。熊本県・大分県在住の会員につき、2016年度年会費を免除とする。すでに支払い済みの会員については、当該の金額を2017年度会費として受け取ることとし、今年度の会費は請求しない。未納分については、通常通り請求する。

### 2. 編集委員会（徳丸委員）

編集委員会より、『現代民俗学研究』第8号完成の報告があった。今回は結果的に筑波大学関係者の執筆が中心となってしまったが、紙面の多様性を担保するため、委員の勤務先に在籍する院生等に積極的な投稿を呼びかけてほしいとの依頼があった。

### 3. 研究企画委員会（川田委員）

研究企画委員会より、今期委員会最後のイベントとして、関西ユニット中心に夏季研究会を企画する予定との報告があった。3ヶ月前の期限が迫っているため、早めに立案を進めることができた。